

2015 年度 第4回 農村計画本委員会 議事録

日 時：2016年3月1日（火）17:00～19:30

場 所：建築会館会議室

出席者：委員長 岡田知子

幹 事 神吉紀代子（Skype）、栗原伸治（文責）

委 員 浅井秀子、井原満明、川嶋雅章、後藤隆太郎、重村力、三笠友洋、
山崎寿一、山崎義人、柳田良造（敬称略）

I. 確認事項

- ・前回本委員会（11月20日）議事録を確認した。

以下を訂正する。

出席者 沼野夏至→沼野夏生、神吉紀代子→神吉紀世子

II. 次期委員長選挙結果 山崎寿一君で～→山崎寿一君を～

II. 報告事項

1. 学術推進委員会関係（12月委員会議案）

(1) 2016年度予算配分

- ・農村計画委員会は計1,185,000円（微増）の予算が配分される。

(2) 2016年度開始特別研究委員会・[若手奨励]特別研究委員会テーマ選考結果

- ・特別研究テーマ：

「建築分野における産学連携とイノベーションに関する事例分析および方法論の提言」
(産学連携・イノベーション特別研究委員会)

「建築環境呼吸器系病原体の実態把握に基づく集団感染機構のモニタリング法の確立」
(建築環境における呼吸器系病原体モニタリング法の確立に関する特別研究委員会)
が採択された。

- ・若手奨励特別研究テーマ：

「建築構造の技術革新と人工知能」
(建築構造の技術革新と人工知能[若手奨励]特別研究委員会)
が採択された。

- ・近年、学会の名前で実施する意味が不明な応募が多い。

- ・選評は厳しいものも多いが、選考委員の点数とは別。

- ・7～8名程度で応募するグループが多い。

(3) 国立情報学術研究所電子図書館事業（CiNii）終了に伴う本会論文等電子データ公開方法について

- ・国立情報学術研究所電子図書館事業（CiNii）は終了するが、J-STAGEと本会のサービスでひきつづき電子データの公開をする。

・ CiNii から年間 500 万円以上の課金があった。今後、本会のサービスにおいても、同様の課金システムを検討する。

2. 大会関係

(1) 2015 年度大会(関東)学術講演会オーガナイズドセッションの講評

・ 農村計画委員会からは提出されていないので、司会を担当した山崎義人先生が直ちに提出する。

(2) 大会若手優秀発表賞について

・ 「若手優秀発表」が来年度より「若手優秀発表賞」になる。

・ エントリー制度をとっているのは農村計画委員会のみ。また、選考方法も委員会によって多様である。農村計画委員会としては2016年度は現在のやり方を新委員会に引き継ぐ。

(3) 2016 年度大会(九州)プログラム編成方針・講演発表時間

・ 例年どおり 1 題あたり 8 分。

(4) 同 研究集会開催期日

・ 研究協議会：初日午前、PD：初日午後 に決定した。

・ 研究協議会は今後、計画系、環境系、構造系それぞれで調整することになった。

(優先順位のローテーションあり)

3. 本委員会関係

(1) 2016 年度大会農村計画部門研究集会（研究協議会・PD：2 件）

○研究協議会「レジリエントでサステイナブル、復興まちづくりから次世代の地域づくりへ」（仮）（初日午前）を開催する。

・ 司会：岡田知子先生、副司会：（新幹事から）、記録：友淵貴之先生
主題解説：（これからつめていく。内諾者あり）

・ 4 月 15 日までに調整する。

○PD「鄙へ向かう人々―「暮らすこと」の楽しみを創る―」（初日午後）を開催する。

・ 司会：柳田良造先生、副司会：齋藤雪彦先生、記録：坂本淳二先生
主題解説：（内諾者 2 名あり）

・ 隠岐に関する主題解説も入れたい（浅井秀子先生経由で検討）。

・ 3 月中には調整する。

(2) 『東日本大震災合同調査報告』進捗状況

・ 建築社会システムはすべて入稿済。

・ タイトルの変更を申し入れたが、おそらく変わっていない。

・ 総集編で未提出の委員会は 5 つ。大至急、提出しないと担当から外されてしまう。

III. 審議事項

1. 2016 年度大会講演要領・司会要領

・ これまでどおり、1 題 8 分のうち、本人の発表 5 分、質疑 3 分。

・ セッションごとにまとめて質疑討論するが、質疑討論時間は司会者が管理し、かならず

しもこのとおりにする必要はない。

2. 委員推薦関係

(1) 論文集委員会委員

- ・後藤隆太郎先生、佐藤栄治先生を推薦する（大沼正寛先生は留任）。

(2) 技術報告集委員会委員

- ・松下重雄先生を推薦する（齋藤雪彦先生は留任）。

(3) 広報委員

- ・新体制の新幹事から選出する（山崎寿一新委員長に一任する）。

(4) 2016年度大会学術講演会プログラム編成会議委員（選任にあたってのお願い）

- ・山崎寿一新委員長に一任する。

3. 本委員会関係

(1) 催し物実施報告：文化的景観フィールドスクール 2015「但馬の浜に暮らす」

- ・12月4日～5日に竹野北前館にて実施した。
- ・小委員会のfacebookで、閲覧数がここだけ桁違いに多い（900ぐらい、他は10程度）。

(2) 催し物実施計画：研究会「むらを住み継ぐカタチ：瀬戸内一島をつぐもの。」

- ・6月4日に広島県三原市の離島にある小佐木公民館にて実施予定。

(3) 小委員会活動報告・計画

- ・各小委員会から、今年度の活動報告と来年度以降の活動計画について説明がなされた。

(4) 「農村計画委員会委員長選挙内規」について

- ・修正案が認められた。
- ・これに加え、白票の扱い方（白票は無効とする）について追記する。

（4. のあとに「なお、白票は無効票とする。」を追記）

(5) 委員の委嘱・解嘱（2016-2017年度農村計画本委員会委員選定）

- ・小委員会の体制（「新陳代謝」）については、来年度中に審議する。
- ・農村環境共生小委員会の主査として、至急、篠部裕先生に打診する。
広島を中心に中国・四国地方でエコビジョン等をおこなっている人たちを勧誘する。
（メンバーについては、次回の本委員会で追加可能）
- ・次期の本委員会委員については、山崎寿一新委員長が案を作成しメール審議をする。
（主査・幹事は留任するが、その他の委員は若手を中心に選出する）
- ・幹事の候補としては、斎尾直子先生（内諾済み）、山崎義人先生（内諾済み）、栗原伸治（現幹事のうち一人が留任するという慣例にしたがう場合）があがった。
- ・これにともない、集落居住小委員会主査は山崎義人先生から佐久間康富先生に変更する。
- ・日韓交流は8月に金沢で開催することが決定（第1候補：8月8日(月)～9日(火)）。
- ・アジア農村フォーラムWG主査 栗原伸治→川嶋雅章先生に交代。
（新主査には8月の日韓交流でご挨拶していただく）
- ・ルーラルネットWG主査 山口秀文先生に打診する。
（HPの担当も新委員長に近い方とする）
- ・以上の設置申請書類は、山崎寿一新委員長が作成・提出する。

4. その他

○2016 年度春季学術研究会の企画について（配布資料あり）

- ・タイトル「鵜飼の文化的景観を探る」

動物を媒介とした特色のある夜の文化的景観を取り上げる。

- ・時期は、気候的にも風景的にも 6 月初旬の土日がよいと考えている。

候補として 6 月 4 日～5 日があがっていた。

- ・しかし、研究会「むらを住み継ぐカタチ：瀬戸内一島をつぐもの。」と重なっているため、日程調整が必要。

→6 月 11 日～12 日に決定。

- ・講演者 3 名中 2 名は決定（鵜飼についての講演）。もう 1 名「風土と文化的景観」について講演できる人を探している。

- ・実施計画書を至急、作成して提出する。

○住宅系研究報告会の運営幹事について

- ・現在、神吉紀世子先生、瀬沼頼子先生、中田悟先生が運営幹事を担当している。

・瀬沼頼子先生、中田悟先生に代わる運営幹事として、山口秀文先生にお願いすることになっていたが、山口秀文先生は現在、都市計画部門の運営幹事のため、農村計画部門の運営幹事になることはできないとの返答があった。

- ・代わりに、平田隆行先生と友淵貴之先生を推薦することになった（内諾済み）。

- ・神吉紀世子先生には留任していただく。

・この報告会は、2016 年度は続けるが、2017 年度以降どうするかについては、山崎寿一新委員長が中心になって、建築計画委員会、都市計画委員会、建築社会システム委員会と連携して討議する（農村計画委員会としては、やめる方向で意見を述べる予定）。

- ・関東からの運営幹事については、山崎寿一新委員長に一任する。

○農村計画委員会発足 50 周年について（山崎寿一新委員長より）（配布資料あり）

- ・50 周年の蓄積と未来につながるイベントをおこないたい。

・重村力先生に顧問になっていただき、歴代委員長に声をかけて、若手が実行部隊となって実施する。

○ISAILA（アジア建築交流）について

- ・重村力先生、岡田知子先生は顧問。

- ・農村計画部門からも積極的に投票をしてほしい（エントリー切：3 月 20 日）。

以上